

キャラクター名
鬼城 尚角(オニシロ ナオズミ)

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ ソラリス		ワークス	UGN支部長D	カヴァー	警察官
オプション			年齢	34	性別	男
覚醒	感染	衝動	加虐	初期侵食率	29 %	
出自	安定した家庭	経験	転属	邂逅	上司	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	3	0	0			3	行動値	3
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	3
精神	1	0	0			1	戦闘移動	8
社会	4	1	2			7	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉		4
回避			知覚			意志	3		調達		2
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN		1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
クリスタルシールド	白兵	3r-1	12	0		同時装備不可
↑ウエポンケース		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
すごい服 (購入:10)		1			〈交渉〉達成値+2
UGNボディアーマー (購入:12)		8			

所持品	
情報収集チーム	

合計装甲: 9 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
榊原亮介	P 信頼	N 隔意		
谷修成	P 連帯感	N 不安		
相庭明仁	P 感服	N 脅威		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 18 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
ターゲットロック	3	3	セット	視界	単体	自動	-	
効果:	シーン間対象に対する攻撃力+[LV*3]							
コンセ:ソラリス	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-[LV](下限7)							
錯覚の香り	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	判定ダイス+[LV]							
絶対の恐怖	1	3	メジャー	視界	-	対決	-	
効果:	攻撃力+[LV]、装甲値無視							
イージスの盾	3	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果:	G値+[LV]D10							
快樂の香気	★	-	メジャー	視界	シーン(選択)	自動	-	
効果:	快樂物質を散布し対象を呼び寄せる							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

警察内部の親UGN派によって作られたレネゲイド関連事件担当独立調査課・通称R担当所属のエージェント。その設立に伴い各組織の連絡役として作られたUGN支部の初代支部長であり、N市警察署の課長職の一人。といっても新設の組織であるためUGN・警察内部両方の肩身は非常に狭い。全国から集められた経験豊富で優秀な警察関係者が所属する、所謂エリート組織のトップであるが、同内部組織の反UGN組織との確執も深いために苦労も多い。

約20年前に中東の小国で未知の遺跡が発見され、そこから発掘された遺産の輸送を行った飛行機が墜落したその日からオーヴァードとして覚醒した。とはいえ表に出にくい能力であったためしばらく自覚症状はないまま日々を送っていたが、高校生になった頃に世界各国で起こる原因不明の事件事故の続出で能力を自覚する。当時の日本国内のレネゲイド事情はあまりよいとは言えず、排除の動きが強かったためにオーヴァードであることを隠して日常を送っていた。

警察官を志すきっかけとなったのは、オーヴァードによる事件とは公表されなかったが発症者から見れば一目でわかる消失事件の報道だった。公にこそならなかったが、大規模な対策本部が掲げられて対応に乗り出したこと。そして、これを機にオーヴァード排他の動きが強くなったこと。自分のようにオーヴァードでありながら何の犯罪にも手を染めず、ただ平穩に暮らしたい発症者もいるはずであると考えた彼は、内部からこの考えに対する覚悟を学生でありながら決意し、死者重傷者を多く出した龍城事件の報道によりその意志は強固となる。その後警察官としての職を得て、想像以上に警察のオーヴァードの扱いの悪さ、そして徐々に起こりつつある内部での対立を目の当たりにし、親UGN派としてイリーガルとして登録、そして10年前にUGNエージェントとして出向するように同志である上司からの命令を受け、エージェントとなる。

当然警察内部での立場はより悪いものとなり、警察内部の反UGN組織から睨まれることになって苦労している。紆余曲折を経て、警察内部に公式に親UGN派による組織・R担当が設立する。それに伴ってUGN・警察間の調整をするためにそれを主の業務とするUGN支部を設立することになり、その責任者として白羽の矢が立ったのが彼。N市警察署内のワンフロアを一般人立ち入り禁止区画と設定し、支部としている。こういった体制を取ることから、通常のUGN支部とは業務内容が異なっていることからUGN内部の立場もあまりよいとは言えない。特に人材運用に関しては、表向き警察ということから大っぴらにイリーガルやチルドレンと協力して事件解決に向けて行動するのが難しいこともあり、近隣支部から派遣として借り受けることとして運用している。そのため初動は後手に回りがちな一面もある。現状協力関係にある支部との関係が良好なのが唯一の救いと言わなければならない。しかしそういった不遇な環境でありながら、小言はあれど文句を言わず仕事をするのが彼であるので、そういった一面から、この支部を任されている、のかもしれない。